

施策番号	2701		
施策名	安全・安心な水道・下水道の構築		
概要	安全・安心な市民生活を支えていくため、安全な水道水を安定して供給するとともに、大雨による浸水の被害を最小限に抑え、市民の生命や財産を守る。また、大地震や風水害等の災害にも強い上下水道施設を整備する。		
担当局・部室	上下水道局・水道部、下水道部	共管局・部室	
上位政策	27 暮らしの水		
施策に関する 主な分野別計画等	京（みやこ）の水ビジョン， 京都市上下水道事業中期経営プラン（2013－2017）		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		27年度	28年度	29年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	水道配水管の更新率(%)	b	a	1.0	1.1	1.1	100.0%	a	1.00
2	道路部分の鉛製給水管の割合(%)	b	b	7.1	4.2	3.2	68.8%	c	0.50
3	有効率(水道)(%)	c	b	92.7	94.0	-	-	b	0.25
4	下水道管路地震対策率(%)	a	a	76.9	82.6	82.6	100.0%	a	1.00
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		27年度	28年度	29年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	a	a	216	224	73	20	11	544
				39.7%	41.2%	13.4%	3.7%	2.0%	
2	大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	b	b	162	149	88	55	27	481
				33.7%	31.0%	18.3%	11.4%	5.6%	
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		a	a	市民生活実感調査総合評価					a

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 上下水道サービスを支えている浄水場や管路などの上下水道施設は、普段市民の皆様に意識されにくく、その整備の成果がすぐに市民実感につながりにくいものであるため						28年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						27年度	A

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	水道事業	28,728,823	30,512,000	—	上下水道局
2	公共下水道事業	47,496,350	48,050,000	—	上下水道局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・京都市上下水道事業中期経営プラン（2013－2017）に基づき、引き続き老朽化した水道・下水道施設の改築更新や耐震化を計画的・効率的に推進する。

施策名	2701	安全・安心な水道・下水道の構築				
-----	------	-----------------	--	--	--	--

指標名	水道配水管の更新率（％）					
-----	--------------	--	--	--	--	--

担当課	水道部管理課	連絡先	6 7 2 - 7 7 4 3		
-----	--------	-----	-----------------	--	--

1 指標の説明

年間に更新した配水管の管路延長の総延長に対する割合（この率が高ければ更新が進むことになり、老朽化した配水管の割合を減らすことができる。）

2 指標の意味

老朽化した配水管の更新を図り、安全・安心なライフラインを構築する取組の状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：年間更新管路延長÷管路総延長×100
出典：京（みやこ）の水ビジョン
上下水道事業中期経営プラン

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	1.0	1.1	0.1ポイント増	1.1	上下水道局運営方針・事業推進方針	100.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		1.2	29年度	85.7%	京都市上下水道事業 中期経営プラン（2013-2017）※達成度は改善度を記載 ＝（最新数値-平成24年度数値（0.5）） ／（中長期目標数値-平成24年度数値（0.5））	

5 評価基準

単年度目標に対する達成度が
a：100%以上
b：90%以上100%未満
c：80%以上90%未満
d：70%以上80%未満
e：70%未満

6 基準説明

目標を上回る可能性もあるため、単年度目標に対する達成度が100%以上をaとし、以下5段階に基準を設定した。

7 評価結果

27	28	29
b	a	a

1 指標の説明

給水管のうち、道路部分に鉛製給水管を使用している件数の割合

2 指標の意味

水道水質への不安を払拭するための鉛管解消事業の進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：鉛製給水管使用件数÷給水装置数×100
出典：京（みやこ）の水ビジョン、上下水道事業中期経営プラン（事業担当課調べ）

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	7.1	4.2	2.9ポイント減	3.2	上下水道局運営方針・事業推進方針	68.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		0	29年度	75.4%	京都市上下水道事業 中期経営プラン（2013-2017）※達成度は改善度を記載 ＝（最新数値-平成24年度数値（17.1）） ／（中長期目標数値-平成24年度数値（17.1））	改善度（28年度） 74.4＝（（4.2－7.1） ／（3.2－7.1））×100

5 評価基準

最新数値と目標値を比較して
a：目標値達成
b：目標値未達成で改善度80%以上100%未満
c：目標値未達成で改善度50%以上80%未満
d：目標値未達成で改善度50%未満
e：現状維持

6 基準説明

目標値達成を最高のaとし、目標値に達しなくても改善度によりそれぞれb, c, dに、現状維持であればeと設定した。
※改善度＝（最新数値-前回数値）
／（目標値-前回数値）×100

7 評価結果

27	28	29
b	b	c

施策名	2701	安全・安心な水道・下水道の構築				
-----	------	-----------------	--	--	--	--

指標名	有効率（水道）（％）					
-----	------------	--	--	--	--	--

担当課	水道部管理課	連絡先	6 7 2－7 7 4 3			
-----	--------	-----	---------------	--	--	--

1 指標の説明

水道施設及び給水装置を通して給水される年間の水量に対する事業運営上有効と見られる水量(有効水量)の割合

2 指標の意味

安全・安心な水の供給の効率性を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：有効水量÷給水量×100
出典：厚生労働省水道統計

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	92.7	94.0	1.3ポイント増	-	-	-

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

5 評価基準

最新数値が
a：95%以上
b：92%以上95%未満
c：90%以上92%未満
d：87%以上90%未満
e：87%未満

6 基準説明

水道の漏水防止対策を進める上で、国が勧める目標値90%以上をcとし、92%以上であればb、95%以上であればa、また、90%を下回ればd、87%を下回ればeと設定した。

7 評価結果

27	28	29
c	b	b

1 指標の説明

布設後50年を超えた老朽化した管路及び重要な管路のうち地震対策済みの管路の割合

2 指標の意味

老朽化した下水道管路の機能維持・向上を図り、安全・安心なライフラインを構築する取組の状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：地震対策済管路の延長÷老朽化管路・重要な管路の総延長×100

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	76.9	82.6	5.7ポイント増	82.6	上下水道局運営方針・事業推進方針	100.0%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		87.7	29年度	82.3%	

5 評価基準

最新数値と目標値を比較して
a：目標値以上
b：目標値未満で改善度80%以上100%未満
c：目標値未満で改善度50%以上80%未満
d：目標値未満で改善度50%未満
e：現状維持

6 基準説明

目標値を上回る可能性もあるため、目標値以上を最高のaとし、目標値に達しなくても改善度によりそれぞれb、c、dに、現状維持であればeと設定した。
※改善度＝（最新数値-前回数値）／（目標値-前回数値）×100

7 評価結果

27	28	29
a	a	a